

第4章 施策の展開

施策1 みんなが楽しく学べる場や機会の充実

1 人生100年時代を楽しむ学習の場や機会の充実

【現状と課題】

生涯学習を実践したことがある市民の割合は増加傾向にありますが、市民が生涯にわたって学び続けるためには、世代ごとの生活状況に応じた学びの選択肢を確保していくことが必要です。子どもや青少年は、学校外での学びの重要性を感じながらも、学べる場が限られたり、学習意欲が継続しにくい状況があります。また、働く世代は時間や費用の制約から学習の機会を持ちにくく、高齢者は健康・交通・デジタル環境の制約で参加が難しい面があります。それぞれの年代で学習が楽しいと思えたり、学ぶ意欲を掻き立てるような学習の場や機会の充実を図り世代を超え、互いの経験を共有する場を確保していくことが必要です。

【方向性】

乳幼児から高齢者まであらゆる世代が学びに触れられる機会を整備するため、子どもや青少年には学びが楽しいと思えたり、学ぶ意欲が増すような社会教育との連携を進めます。また、探究活動や地域体験を通じて学ぶ場を広げ、自己肯定感を育む体験型の学習を推進します。高齢者にはフレイル予防をはじめとした健康づくりや社会参加につながる講座を充実させ、孤立防止や生きがいづくりを支えます。さらに、世代を超えて共に学べる内容の講座等を通じ、多様なライフステージに応じた学びを提供することで、市民が知る喜びや学びの楽しさを知り、学び続けられる学習の場や機会の充実を図ります。

① 子ども・青少年の学びの場や機会の充実

子どもや青少年が主体的に取組み、自己の可能性を広げられる学びを目指し、学校教育と社会教育を連携させ、探究活動や地域の文化・自然に触れる体験を提供するとともに、放課後の活動や学習支援を充実させ、子どもたちの居場所にもなり得る場を提供します。さらに、地域の人材を学習サポーターとして活用することで、学びが「教わる」だけでなく「共主体的に学ぶ」体験となるよう整え、子どもたちが「学ぶことの楽しさ」を知ることによって学びに対する意欲を高めます。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
青少年のための科学の祭典	青少年に科学に親しんでもらうため、科学技術等の分野の実験や工作を一堂に集めたイベントを実施	

地域未来塾	地域におけるすべての子どもたちを対象に大学生などの地域住民の協力により放課後などに学習支援を行う。	
学童収穫体験	市内小学生による市内農作物の収穫体験	

②高齢者の学び合いの場や機会の充実

高齢者にとっての学びは、生きがいづくりやフレイル予防、社会参加の基盤となります。趣味や教養を深める講座に加え、健康づくりや健康寿命延伸につながる活動機会を充実させます。また、様々な学習機会を提供することで、孤立を防ぎ、学びを通じた新たな仲間づくりを促進するとともに、高齢者が自らの知識や経験を次世代へ伝える「学びの循環」も推進し、地域の持続的な活力につなげます。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
高齢者学級	各公民館において、高齢者の学びと交流を進め時代に即した課題を選んだ講座を開催（生きがい広場、けやき学級、くりのみ学級、みどり・朴の樹学級、はなみずき学級）	
高齢者いきいき活動	高齢者のいきがい、健康増進等のための講座の開催	
さくら体操	市民のリーダーを養成し、ご当地介護予防体操である「さくら体操」を通じて、社会参加や運動機会を提供	

③多様な世代の学びの場や機会の充実

人生 100 年時代を楽しむため幅広い世代が共に学び合う生涯学習をめざし、多世代交流につながる事業やイベント等通じて、世代を超えて学びを共有する機会の充実を図ります。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
防災フェスタ（総合防災訓練）	防災意識の向上、実際の震災対応に向けた総合防災訓練の実施	
野川環境フィールドワーク	野川清掃活動等の実施を通じた、野川流域の環境保全	
おはなし会他	図書への興味を持ってもらうため読み聞かせや、おはなし会ほか、各種親子交流事業の実施	

2 一人ひとりのキャリア（人生）に応じた学習の場や機会の充実

【現状と課題】

小金井市には多くの文教施設や豊かな自然環境など学びの基盤が充実しているため、今後も活用していくことが重要です。特に働く世代や子育て世代は、興味があっても情報や時間の制約があり、学びの機会を得ることが難しい状況です。また、障がいのある方や日本語を母語としない方は、言語や表現方法の違い、移動・参加の難しさなどから学習の選択肢が限られています。多様な立場の人が情報を得やすく、参加しやすい環境整備が求められます。

【方向性】

人生100年時代、Society5.0を見据え、人生をより豊かにするためには、リカレント教育の充実が求められています。

また、一人ひとりのキャリア（人生）に応じた学習の場や機会の充実を図るため、さらに、共生社会実現の観点から障がいの有無や言語を問わず、学ぶことができる環境を整備し、多様な市民が互いに学び合う場を創出します。

① 大人の学び直し等の推進

社会の変化に対応するため、働く世代や子育て世代、高齢者世代に対する学び直しの支援を充実させ、市民のキャリア形成を支援します。また、人生100年時代を見据え、学び直しを「自己成長」と「地域貢献」の両面で位置付け、自身の人生を豊かにし、キャリアアップを図るとともに、学んだ成果を地域の課題解決などへ活かせる仕組みを構築します。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
成人大学講座	専門的な知識を学ぶため、市内大学と連携し、各種講座を開催	
まなびあい出前講座	生涯学習の支援のため、市民に向けた行政の制度や事業の内容等の出前講座を開催	

② 高等教育機関との協働の推進

市内外の大学や専門学校などとの連携を深め、大学の研究成果や専門的知識を市民講座や地域課題解決に活かす仕組みを整えるとともに、学生や研究者が地域活動への参加を促します。また、高等教育機関が実施する地域公開講座等を積極的に周知するなど、文教都市の特色を生かしたリカレント教育を推進します。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
包括連携協定締結校等との連携協力の推進	各種大学等との協定を継続し、相互に教育活動の充実に努める	

③ 共生社会実現における学習の場や機会の充実

誰もが学びに参加できる環境づくりは、共生社会の基盤です。小金井市では、平成30年に「障害のある人もない人も共に学び共に生きる社会を目指す小金井市条例」が施行され、生涯学習施策においても、共に学び生きる社会の取組の推進が求められています。障がいの有無や言語の違いにかかわらず学べる機会を充実し、相互理解を深め、市民一人ひとりが尊重され誰も取り残さない学びの環境を実現します。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
生活日本語教室	日本語を母語としない方の日本語学習支援と国際交流を図る	
国際交流事業	市内の国際交流団体との連絡会や日本語スピーチコンテスト等を行う	
文化・スポーツ・レクリエーション活動の支援	障がいのある人も参加できる文化・スポーツ・レクリエーション活動事業を実施し、豊かで充実した地域活動の促進を図ります。	
青年学級（みんなの会）	障がいのある方の自立のための学習活動と交流を図る学級の開催	

3 情報発信の推進・相談体制の整備

【現状と課題】

市民が生涯学習の情報を得ようとする、ホームページや市報の情報だけでは、個々の関心や生活状況に合った学びを探すのが難しいのが実情です。特にデジタルに不慣れた高齢者や、地域にきたばかりの転入者、日本語を母語としない方などは情報にたどり着けず、相談先も不明確にみえることから、学びの入口を分かりやすく示すことが必要です。

このため、横断的な案内フローの整備、相談後の連携の充実が重要です。

【方向性】

市民が自分に合った学びに出会える環境を構築するため、学びの情報を誰にでも分かりやすく届ける体制を整備します。SNSやホームページに加え、公共施設での情報提供を充実させ、多言語ややさしい日本語による発信も検討し、市民一人ひとりのニーズに沿った学びを提案できる支援体制を充実します。

① 発信方法や発信内容の充実

市のホームページやSNSの活用を強化し、市民が必要な学習情報に素早くアクセスできるよう、情報発信の手段と場所を多様化します。また、やさしい日本語や多言語対応を進め、日本語を母語としない方を含む幅広い層に情報が届く仕組みを検討します。

公民館をはじめとした公共施設においても、市報やチラシを活用して学習情報を市民に身近な形で発信していきます。さらに、動画の活用など新しい媒体の導入も検討し、若者が学習機会を知りやすい環境をつくれます。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
市HP、公式X、公式lineの活用	広く市の情報を周知するため、市からのお知らせやイベント情報、市政情報等について掲載	

②相談体制の整備

学びたい意欲を持ちながらも「何を学ばよいか」「どこで学べるか」が分からない市民に対して、アクセスしやすい情報提供に努めます。また、学びの成果を地域活動やボランティアにつなげたい人へわかりやすい窓口案内となるような相談先の明記や相談の受け手となり得る人材の生涯学習への理解を促します。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
サークル案内等	社会教育関係団体の情報を集約し、ホームページへの掲載等による周知の実施	
生涯学習情報コーナー（ホームページ）	市ホームページに生涯学習情報コーナーを設け、生涯学習情報を発信	

施策２ 学びを活かし地域とつながる仕組みや仕掛けの支援

1 学びを活かす人づくりの推進

【現状と課題】

市民の中には、ボランティアや地域活動に関心を持ちながらも、自分にできることや活動の入口を探している人がいます。また、意欲ある人が活動を継続するための仲間やサポートが必要だと感じられたり、働く世代は、活動時間の確保が難しく、学びを地域に生かす実践の場に参加しづらい現状があります。

このため、ボランティア育成や学びの中心人物（コーディネーター）を育成していくための、研修の充実や担い手の確保も必要です。

【方向性】

市民の学びが地域や社会で活かされるようにするために、学んだ知識や技能を地域に循環させる場や機会の充実、市民の中からリーダー的役割を果たせる人材を育成することが重要です。

ボランティア活動を担う人には研修や講座を通じたスキル習得の機会を整え、初めての人でも安心して参加できる支援体制を強化し、学校や団体との協働を通じて学習成果を活かせるような場を設けます。学びを活かす人づくりを推進することで、地域全体の学習力と持続的な市民活動の基盤を築きます。

① ボランティアの養成・支援

ボランティア活動の基礎的な知識やスキルを学べる講座や研修を体系的に整備し、初めての人でも参加しやすい環境を整えます。また、学んだ内容を活かせるようなボランティア活動への登録等を支援し、学びを続ける意欲を高めます。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
ボランティアセミナーの開催	市内の様々なボランティア活動をするためのボランティア講座の開催	
ボランティアの育成支援	音訳及び点訳及びおはなしボランティアの育成のための講習会等を開催	

②活動、学びの中心人物の育成、発掘、伴奏支援

地域の学びや活動を支える「コーディネーター的役割」を担う人材を発掘・育成することは、持続可能な生涯学習の推進に不可欠です。研修や交流を通じてスキルアップを図るとともに、既存の社会教育団体等と協働し、学びの実践を通じてリーダーシップを磨く場を設けます。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
Y A サポーター	小学校高学年から 25 歳くらいまでの若者が公民館で実施する講座の企画段階から参画し、若者自身の問題意識等に基づく主体的な学びを行う。	
スポーツ推進委員研修会	市民へスポーツの実技指導や、その他スポーツに関する指導・助言を行う。スポーツ推進員が資質向上のため研修会に参加	

2 学びを通じたつながり・地域づくりの推進

【現状と課題】

地域の中で人とつながりながら学ぶ機会は、オンライン化や個人化が進む中、地域や世代を超えた交流が生まれにくい状況にあります。特に子育て世代や単身世帯、高齢者の一部は地域との接点が薄く、孤立や不安を抱えがちです。このため、学びが社会参加へと広がるよう、互いの経験を生かし合えるつながりづくりや、また、学校・地域・社会教育関係団体・NPO等の連携を進めるなど、協働を支える支援が求められます。

【方向性】

学びを通じたつながりは市民に新たな気づきを与え、学びの成果を活かした地域課題の解決や住みよい環境づくりへとつながります。

学校・社会教育関係団体・NPOなどとの協働を進め、学びを通じたつながりを強め、地域の多様性を力に変える取組を展開します。また、スポーツや文化芸術活動を交流の場として活用し、仲間づくりや地域づくりを支援します。

① 地域と学校の協働の促進

地域と学校が互いに学び合う関係を築き、地域の人材が学校に入り、キャリア教育や文化・伝統の伝承活動に協力する一方で、学校は子どもたちが地域社会を理解する機会を広げます。また、地域課題を題材にした探究学習を推進し、子どもたちが学びを通じて地域に貢献する体験を得られるようにします。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
地域学校協働活動	放課後の活動や安全確保、授業補助や課外活動の支援等を地域住民等の参画を得て推進するとともに、社会全体の教育力の向上及び地域の活性化を図る	
コミュニティ・スクール	学校運営協議会が中心となって、教育活動における学校・家庭・地域相互の連携・協力の推進を図り、「社会に開かれた教育課程」を実現する	
放課後子ども教室	地域におけるすべての子どもに向けた放課後の安全・安心な居場所作りのための事業を行う	
学校部活動の地域展開	学校内で運営されてきた活動を広く地域に開き、地域全体で支えられるとともに、新たな価値を創出し、より豊かで幅広い活動を目指す。	

② 社会教育関係団体・NPO法人とのつながりの推進

小金井市にある文化・芸術・スポーツなど幅広い分野で活動する社会教育団体やNPO法人と連携し、市民が多彩な学びの機会を得られる仕組みを整えます。さらに、団体の活動に働く世代・子育て世代の方や日本語を母語としない方が参画しやすいように支援することで、多世代・多文化の交流を促進します。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
小金井NPO法人連絡会	市内のNPO法人で構成されるNPO法人連絡会に参加し、連携強化を図る	
小金井市市民協働支援センター準備室	市民協働・市民活動に関する相談や市民活動団体リストの管理を行う	

③ 文化・スポーツを通じた仲間・地域づくりの推進

スポーツや文化芸術活動は世代や立場を超えて人と人をつなぐ有効な手段です。競技スポーツだけでなく、健康づくりやレクリエーションとしてのスポーツ活動の推進や文化芸術活動に触れる機会の充実を図り、活動を通じた仲間づくり・地域のつながりづくりを支援します。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
多種多様なスポーツプログラムの実施	各種の年齢層に向けた各種スポーツ教室等の実施	
市民交流センター事業	文化芸術に関する公演、講座、館外活動等の企画及び実施とそのための施設の提供	

④歴史、文化財、自然（みどり）に触れる機会の充実

市の歴史や自然、地域文化に根ざした豊かな資源を学びの題材として活かし、市民が郷土の歴史や文化財に親しむ機会を拡充します。このため、文化財センターについて、展示・保管施設以外の活用等について併せて検討します。また、市民と協働できる仕組みを整え、文化財を守り次世代へ伝える学びと継承の循環を生み出します。

みどりが豊かな本市の特色を活かし、子どもも含めて環境に対する学習の場や機会の充実を図ります。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
文化財センター事業	常設展示コーナーをはじめ、郷土の歴史や文化財に関連する市民団体利用のために、文化財センター学習室の開放を実施	
市史編さん事業	市史について調査・研究してきた成果を学校教育や生涯学習に役立てるとともに、市民の郷土に対する理解と愛情を深める	
子ども環境ワークショップ	小学生を対象に、環境に関するテーマについて親子参加型のワークショップを開催し、日頃の生活の中で、環境保全を意識した行動につなげる環境啓発を実施	

3 学びを活かす場の充実

【現状と課題】

市民が学びの成果を発表や共有、活かしたりすることで、学び意欲の維持や次の挑戦へのステップが生まれようにすることが重要です。また、多くの市民が、学びの成果を地域や社会に広げていくことができる仕組みづくりが必要です。

【方向性】

学習成果が地域の活力へと広がるよう、学びの成果を発表し合う機会を設け、市民の学びを可視化・共有することで意欲を高めます。展示会や発表会、オンライン配信など多様な形で成果の発信方法を検討し、世代を超えた刺激と交流を生み出します。さらに、学びを発表したり活かす場を通じて社会の中で学びを循環する仕組みを築きます。

① 学びの成果の発表や交流の場の充実

市民の学びの成果を発表し、共有できる場を充実するとともに、学習の到達点を可視化することで、学びの意欲をさらに高め、他者の学びから新しい刺激を受けられる環境を整えます。また、発表や活かす過程で、発表者同士が交流できるような機会を設けます。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
市民文化祭	市民による手作りの文化の祭典の開催	
地域課題解決型学習の推進	公民館で得た学びの成果を地域課題解決に向けた取組へつなげるための支援の実施	
剪定ボランティア	剪定の講習を受講した市民団体が、学んだことを活かして公園等の生垣・樹木の剪定を実施	

施策3 学びとつながりを支える基盤の整備

1 生涯学習関連施設等の整備

【現状と課題】

公民館や図書館、運動施設などは市民の学びや活動の拠点ですが、施設が老朽化していたり、使い方が限られていたりする面も見られます。働く世代や子育て世代、障がいのある方、日本語を母語としない方など、多様な人にとって使いやすい環境にし、身近で気軽に立ち寄れる「学びの場」としての魅力を高める工夫が求められます。

【方向性】

図書館や公民館など社会教育施設を学びの交流拠点として活用できるよう、多世代が利用できる環境を整えます。Wi-Fi 環境整備や多言語対応の検討など、誰もが快適に利用できる環境整備を進めるとともに、公共予約システムの利用促進など、施設の利便性の向上を図り、学びを支える基盤を充実させます。

① 社会教育施設等の充実

市民が身近に学びに触れられるよう、図書館、公民館などの社会教育施設は学びを創発する拠点として、講座やワークショップ、展示の場など社会教育施設としてより有効活用できるよう検討していきます。また、安全・安心して利用できるよう、施設の老朽化対策や安全対策等、適切な管理に努めます。さらに多言語対応の検討、Wi-Fi 環境整備など、誰もが快適に利用できる施設環境の充実を図ります。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
図書館、公民館、文化財センター、清里山荘の施設などの充実	社会教育施設等の有効活用の推進と施設・設備の整備の充実	
公共施設予約等システムの適正管理	オンラインによる公共施設予約システムの利用により、自宅等で予約できる環境を整備	

② 運動施設等の充実

使いやすく安全な施設として適切に管理するとともに、施設の改善を実施していきます。日常的に運動・スポーツに親しむ習慣をつけるためには気軽に運動・スポーツを実施することができる身近な場や機会の充実が求められます。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
総合運動体育施設、上水公園運動施設などの充実	総合体育館、栗山公園健康運動センター等の管理、整備の充実	

2 ICTを活用した学びの推進

【現状と課題】

オンライン講座などICTを利用した学習スタイルは広がりを見せていますが、デジタル機器などを利用できる人とできない人の間で格差が生まれています。高齢者やICT未経験者向けの継続的な学習支援や民間との連携による伴走支援の仕組みなどが必要です。また、ICTを利用した学習スタイルは交流や仲間づくりが生まれにくく、学びの継続が難しいという課題もあり、ICTを孤立しない学びに変える工夫も必要です。

【方向性】

ICTを積極的に活用し、場所や時間に縛られない学習環境を提供することで、働く世代や子育て世代、高齢者が生活に合わせて学べる仕組みを整備します。また、デジタルディバイド解消に向けた講座や支援を充実させ、ICTに不慣れな市民も安心して利用できるようにします。

① デジタルディバイド解消の取組（ネットリテラシーの向上）

誰一人取り残さない学びを実現するため、デジタルディバイド（情報格差）の解消に向けて高齢者やICTに不慣れな市民を対象に、スマートフォンやパソコンの基本操作を学べる講座を定期的に実施し、行政手続きやオンライン学習、情報収集を自立して行えるよう支援します。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
スマホ活用講座	シニアのための生活に役立つスマホ活用講座の実施	
消費生活講座	市内の消費者に役立つ情報を提供し、消費者団体との情報交流を図る	

② ICTを活用した学習や交流機会の促進

ICTを活用したオンライン講座などのハイブリッド型の学習機会を拡大し、子育て世代や働く世代、高齢者が自分の生活に合わせて学べる、時間や場所にとらわれない柔軟な学習環境を提供します。さらに、ICTを通じた、学びをきっかけとした世代・地域を超えたつながりの促進を図ります。

◆ 具体的な事業

事業名	内容	担当課
I C Tを活用した 公民館主催事業の 実施	I C Tを活用し、公民館主催事業等の学習機会の 多様化を進める	
デジタル図書の貸 出タイトルの充実	電子書籍の貸出及び充実	

第1章

計画の策定にあたって

今後修正予定

1 計画策定の趣旨

生涯学習という言葉は、今日の社会で広く普及し、様々な生涯学習活動が展開されています。平成18年12月改正の教育基本法第3条において、生涯学習の理念として「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことができる社会の実現が図られなければならない。」と規定され、生涯学習社会の実現を目指すことが明確化されています。

近年、本格的な少子高齢化と人口減少社会の到来、さらにはグローバル化や高度情報化の進展といった社会情勢の著しい変化により、生涯学習に対する市民意識や学習ニーズが多様化しています。また、環境問題や貧困問題の解決に向けたSDGsの取組が広く共有されていく中で、これまで以上に生涯学習推進の必要性が高まっています。

一方、地域のつながりの希薄化や若年・現役世代の地域参加の減少といった地域の様々な課題が存在し、社会情勢を背景とした地域課題の複雑化が進む中、一人一人の学習成果を地域の課題解決に生かすことができる知の循環型社会の構築が求められています。

本市では、平成16年に「小金井市生涯学習推進計画（第1次）」を策定し、“いつでも”、“どこでも”、“だれでも”を基本に、「地域教育力の活性化」と「市民文化の創造」を2つの柱として各種事業を推進してきました。

また、平成21年には第1次計画の理念や事業を継承し発展させた「第2次小金井市生涯学習推進計画」を、平成28年には更に発展させた「第3次小金井市生涯学習推進計画」を策定し、計画及び各種事業の推進に取り組んできました。

そして、令和3年3月には「第4次小金井市生涯学習推進計画」策定し、「学びでつながる笑顔のまち小金井 ～さあ、動き出そう！人生100年時代～」を基本理念に定め、誰もが生涯学習活動を通じてつながりあえるような環境づくり、共に学びその成果を活かした地域づくりを行い、笑顔で過ごすことができるまちとなることを目指して計画及び各種事業の推進に取り組んできました。

本計画は、これまでの取組による成果や課題、国や都における生涯学習政策の動向や社会情勢等をふまえ、令和7年度末で計画期間が終了する現行計画を引き継ぐ、新たな第5次の計画として策定したものです。

2 計画の期間

本計画の期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間とし、社会経済状況の変化を踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

計画期間

令和 3年度 2021	令和 4年度 2022	令和 5年度 2023	令和 6年度 2024	令和 7年度 2025	令和 8年度 2026	令和 9年度 2027	令和 10年度 2028	令和 11年度 2029	令和 12年度 2030
第5次小金井市基本構想・前期基本計画					第5次小金井市基本構想・後期基本計画				
第4次計画					第5次小金井市生涯学習推進計画				

3 計画の位置づけ

本計画は、「小金井市基本構想・基本計画」を上位計画とし、その「文化と生涯学習」部門を中心とし、関係する施策を具体的に推進する個別計画です。

また、庁内他部局の諸計画との整合性を図るとともに、教育基本法及び「小金井市教育・文化の振興に関する総合的施策の大綱」の理念や方針を踏まえた計画です。

本計画の推進のために市の役割を明確にするとともに、大学などの教育機関や民間事業者、NPO法人、市民団体など様々な活動主体と協働していく際の指針となるものです。

4 計画の策定体制

本計画の策定にあたっては、小金井市社会教育委員の会議において計画素案のとりまとめを行い、生涯学習部においても検討を重ね、庁内の部長職で組織する小金井市生涯学習推進検討委員会で検討し、パブリックコメントを経て策定しています。

第2章

小金井市の生涯学習を取り巻く現状と課題

1 生涯学習の推進をめぐる国や東京都の動向

令和5年6月に閣議決定された「第4期教育振興基本計画」では、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の作り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上がコンセプトとして掲げられ、今後の教育政策に関する5つの基本的な方針が示されています。ここでは、変化する社会・経済環境に対応できるよう、知識や技能の習得、自己実現、社会参加を促進する学びのシステムの構築を目指すとししました。ICTを活用した学習環境の整備や地域などとの連携を進めながら、全てのライフステージで学びが充実するような取り組みが重要視されています。

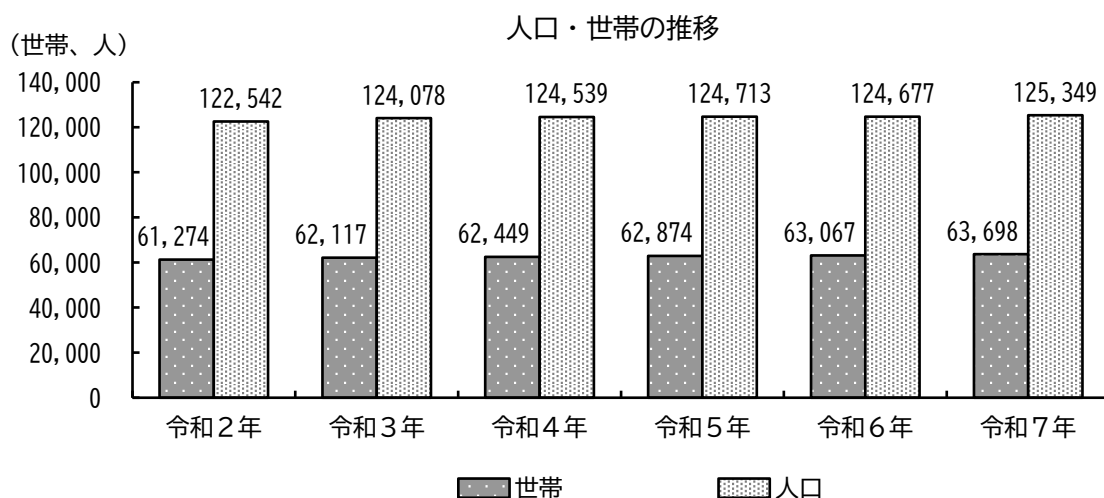
中央教育審議会第12期生涯学習分科会では、計画等を踏まえ、社会人のリカレント教育、障害者の生涯学習、外国人に対する日本語教育、地域の基盤を支える社会教育人材のあり方等について議論を行い、その結果を令和6年6月にとりまとめています。

2 小金井市の生涯学習を取り巻く現状

(1) 統計からみる小金井市

① 人口・世帯の状況

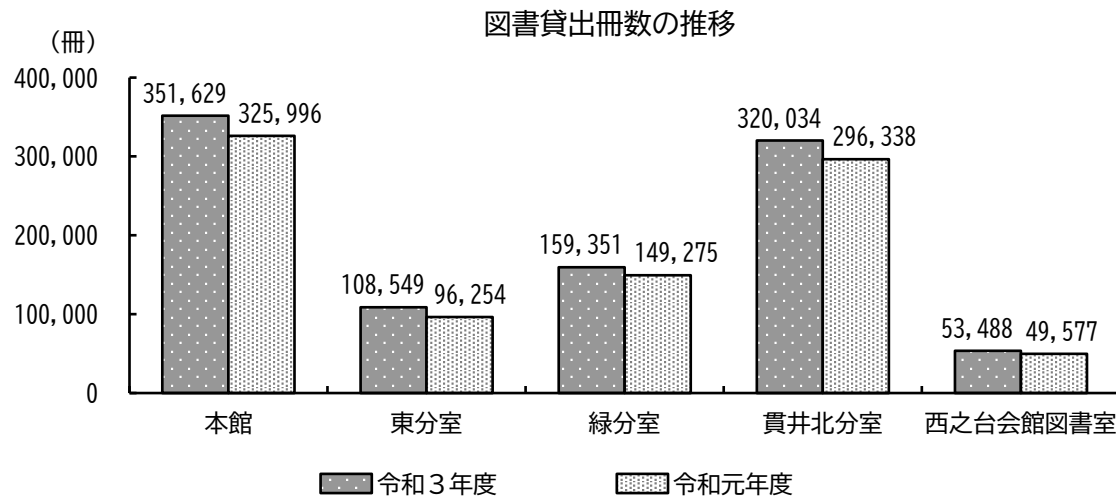
令和7年4月1日現在、本市の人口は125,349人と増加傾向にあり、世帯数は63,698世帯と年々増加しています。



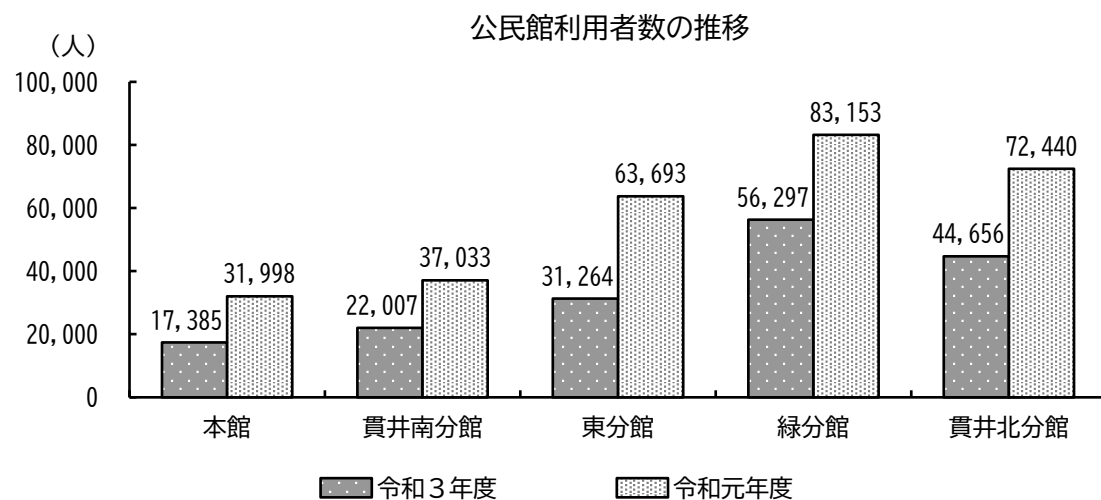
資料：市民部市民課（各年4月1日現在、外国人を含む）

② 図書館・公民館・運動施設の状況

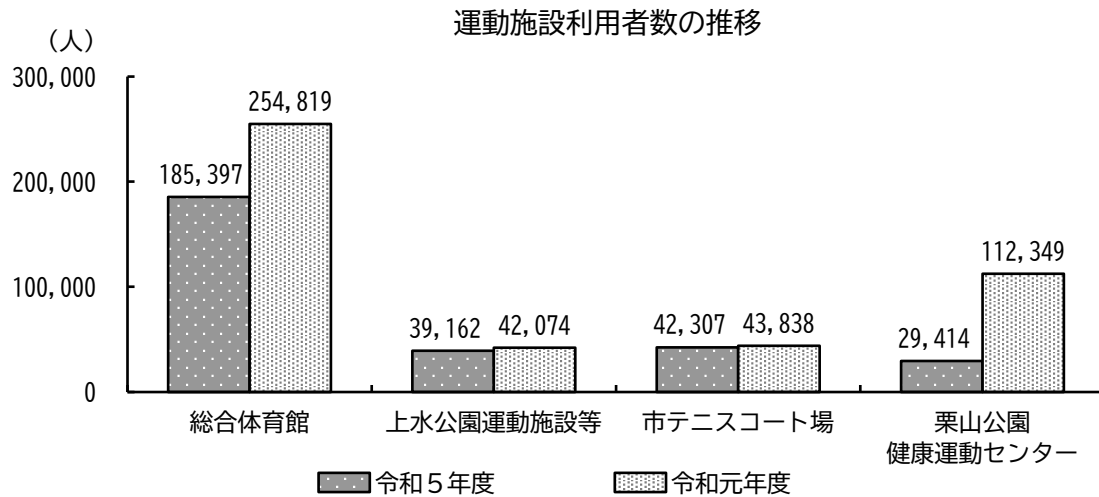
令和3年度末現在、本市には5つの図書館関連施設があり、市民のニーズに応じたサービス提供を行っています。令和元年度との比較では、すべての施設で貸出冊数が増加しています。



公民館施設は5つあり、社会教育活動や地域活動の拠点として活用されています。令和元年度との比較では、すべての施設で利用者が減少しています。



運動施設については、総合体育館、上水公園運動施設、市テニスコート場、栗山公園健康運動センターなどがあり、地域の運動・スポーツ活動に活用されています。令和元年度との比較では、すべての施設で利用者が減少しています。



資料：生涯学習課（各年度末現在）

（２）児童生徒へのアンケート調査結果

- ① 学校以外の勉強や活動の必要性に対する認識
- ② 将来も学び続けること必要性に対する認識
- ③ 習い事や塾の状況
- ④ 学校に地域の大人（授業のお手伝いやボランティアなど）が関わることへの印象

※集計中

3 第4次小金井市生涯学習推進計画の評価

1 誰もが生涯学習に親しむ環境づくり

① 0歳から始まる生涯学習

家庭教育学級や思春期子育て講座は、各小中学校PTAがさまざまな講座を企画・開催しており、おはなし会や子ども体験講座も多く参加者を集め、公民館事業評価シートではいずれの講座も満点の評価を得ています。こうした取組により、乳幼児期における自我や身体能力などの基礎的発達を支える学びや、小中学生の興味・関心に沿った生涯学習活動に挑戦する機会を広げることが期待されます。

② 人生100年時代を楽しむ生涯学習の推進～子どもから高齢者まで～

スポーツ関連事業では、各種教室やイベントを開催することができ、多くの市民にスポーツを楽しむ機会を提供することができました。図書館の貸出冊数については減少したものの、引き続き多くの貸出が行われています。また、団体貸出については、団体数・冊数ともに増加しており、幅広い年齢層の市民が主体的に学び、健康や交流、生活の充実につなげる環境が整いつつあることがうかがえます。

③ 共生社会における生涯学習の推進

障がいのある人もない人もともに楽しめるスポーツや、障がい者スポーツの普及啓発を通じて、共生社会の実現に向けた各種事業を実施し、障がいについての理解を深め、また障がいなど自分の状況に応じた学習に取り組めるよう、学習と交流活動を推進しました。

④ 「新しい日常、新しい生活様式」を踏まえた学びの推進

電子書籍やオンラインを活用した講座等を拡充し、ICTを活用した多様な学習機会や情報提供を進めました。

オンライン学習は、時間や場所を問わず取り組める利点がある一方、機器の利用に不慣れな方には操作方法を学んだり相談したりできる場も必要です。

2 地域と共につくる生涯学習

①学校・地域が連携した生涯学習活動の推進

「コミュニティ・スクール」制度の導入や「地域学校協働活動」の取り組みを通じ、学校と地域が連携した学習活動を推進しています。市内小・中学校においては、地域コーディネーターを中心に特色ある地域学校協働活動が行われ、放課後子ども教室についても、参加人数は増加しました。

②学びの継続と成果の活用の推進

まなびあい出前講座は、申込件数・参加人数とも増加傾向にありますが、コロナ禍以前の水準にはまだ戻っていません。また、利用団体のつどいは、各館とも公民館利用団体の熱意が感じられる事業となっており、市民の自主的な学びや学びを継続するための取組を展開しました。

③地域団体や学校との連携による学びの推進

総合型地域スポーツクラブ「NPO法人 黄金井倶楽部」への支援を通じ、スポーツに関する多様なニーズに対応した事業を開催するなど、地域の活動主体の活動を支援しました。

また、大学図書館の学外利用の緩和により、利用者は増加傾向にあり、体験学習の場としても受け入れが可能となるなど、主体の活動を支援するとともに、連携を通じて市民の多様な学習ニーズに応じた学習機会の充実を図りました。

④郷土の歴史や芸術・文化に親しむ機会の充実

「名勝小金井（サクラ）名勝指定100周年記念事業」については、多くの市民や市内団体、事業者、庁内各部署等の協力を得て、記念式典をはじめとする多くの事業を展開することができ、市民等への啓発に大きく寄与したと考えられます。

3 生涯学習のネットワークづくり

①支援者の人材育成とコーディネート機能の充実

スポーツの各種イベントにおいては、スポーツ推進委員が研修会で得た技能・知識を活用し、指導や審判などを務めるなど、地域で生涯学習活動を支える地域人材の育成を図りました。

音訳講習会は前年度より回数が減ったものの、一定の成果を得ることができました。

また、包括連携協定による講座の実施については、新たな公民館事業の方向性を示すことができました。

②社会教育施設等の活用の推進

清里山荘やスポーツ施設、文化財センターは多くの市民に利用されており、図書館の資料貸出も増加傾向しています。また、公民館には多数の登録団体があり、各社会教育施設においては、今後も利用者をさらに増やす取り組みを継続して行っていく必要があります。

③情報発信・相談体制の充実

図書館では、講座や講演会、読書会等を開催する際に、ホームページの更新と同時にX（旧ツイッター）への投稿も行っています。

また、レファレンスサービスについては、簡易な資料検索も含め、積極的に対応しています。

今後も、ホームページ等を活用した情報発信を工夫して行っていく必要があります。

第3章

計画の基本理念・目標

1 計画の基本理念

今後修正予定

本市では、学校と地域をつなぐ取り組みや、地域で活動する社会教育団体への支援、市内の大学など教育機関との連携強化などを通じて、市全体で生涯学習環境の充実を図ってきました。こうした取組により、地域における学びの基盤が整い、多世代が交流しながら学ぶ環境が育まれてきました。

生涯学習は、学びが単なる知識の習得にとどまらず、個人の価値観や生きがいの形成、社会的関係性の深化、さらには多様な人々との協働を通じた社会参画の基盤となるものです。個人が主体的に学び、自己の可能性を広げることにより、健康やこころの充実、仕事や生活の質の向上といった豊かな人生を享受することが可能となります。

また、学びの場や経験が広がることで、個人のウェルビーイングが高まり、その成果は家庭や学校、地域、職場などさまざまな場を通じて共有され、社会全体の活力や創造性の向上に結びつきます。

特に、子どもから高齢者まで幅広い世代が学びに参加し、それぞれの経験や知識を互いに支え合うことで、世代を超えた知恵や文化の循環が生まれます。

このように、生涯学習は個人の幸福の実現のみならず、地域や社会における共生・協働・創造を促進する基盤であり、個人と社会の双方のウェルビーイングの向上を図る重要な取組です。

そのため、今後は地域の力をさらに結集し、小金井らしい生涯学習活動を進めるため、本計画の基本理念を「学びを通じた豊かな人生と社会への還元」とし、学びによって得た知識や経験を社会全体に還元できる仕組みづくりを関係機関と連携して進めます。また、学びを止めないための環境整備を行い、学校と地域が連携・協働することで、地域全体で未来を担う子どもの成長を支え、地域社会の活性化を推進します。

基本理念

2 施策の方向性

今後修正予定

本計画の基本理念の実現に向けて、次の3つを施策の方向性を掲げ、具体的な施策・事業の展開を図ります。

施策の方向性1

みんなが楽しく学べる場や機会の充実

人生100年時代を楽しむためには、乳幼児から高齢者まであらゆる世代が学べる場や機会を整備し、世代を超えた学びの仕組みを構築することが重要です。個々のライフステージに応じた学びを提供し、学ぶことの楽しさが実感できる環境を整えることで、生涯学習の定着を目指します。

また、キャリア形成や自己実現を支える学びの場の充実を図り、リスキリングや障がい者・外国人の学びの環境整備など、多様なニーズに対応できる体制の強化を図ります。

さらに、学びに関する情報発信や相談体制を強化し、市民がスムーズに自身のニーズに合った学びにアクセスできる環境を目指します。これらの取組を通じて、誰一人取り残されることなく、すべての人が充実した人生を送るための学びを提供できる社会の実現を図ります。

施策の方向性2

学びを活かし地域とつながる仕組みや仕掛けの支援

学んだ知識や経験を地域や社会で活かす仕組みづくりは、地域の活力向上や課題解決につながります。

初心者も安心して参加できるボランティア講座や研修を整備し、地域活動をリードする人材の育成を進めます。また、学校や団体との協働を通じてリーダーシップを育む場を設けることで、市民の学びを地域に還元する基盤を強化します。

さらに、学びを通じた交流は新たな気づきや地域課題の解決に結びつくことから、大学やNPO、社会教育団体との連携を強化し、世代や背景を超えたつながりを広げます。学びの成果を発表する場や展示会、オンライン配信などを通じて共有することで、市民の意欲や交流を促進し、地域課題の解決や次世代育成と結びつける循環を目指します。

施策の方向性3

学びとつながりを支える基盤の整備

生涯学習を支える基盤として、図書館や公民館などの社会教育施設を多世代が利用できる交流拠点として整備することが重要です。また、バリアフリー化やWi-Fi、多言語対応など、誰もが快適に利用できる環境を整えます。

さらに、デジタルディバイド解消しつつ、ICTを活用することで、働く世代や子育て世代、高齢者などが場所や時間に縛られず学べる環境を充実し、誰もが学び続けられる社会の実現を目指します。

第4章

施策の展開

1 計画の推進体制

本計画の推進にあたっては、市民や活動団体、学校、地域、大学、NPO法人、企業などと行政が協働・連携して取り組むとともに、庁内の連携を強化しながら、施策の実施や進捗管理を行います。また、本計画の推進にあたって、広く市民の理解と協力が不可欠であることから、本計画の内容をはじめ、市の生涯学習に関する取組についての情報発信と周知を図ります。

2 計画の進捗把握

本計画を効果的に推進していくためには、各施策の進捗状況を把握し、必要に応じて改善していくことが重要です。そこで、事務局である生涯学習課を中心としつつ、社会教育委員の会議や庁内の会議体などにおいて、各施策の進捗状況の点検・評価を行います。

3 計画の進捗を把握するための指標

本計画の進捗を測るにあたっては、施策の方向性ごとに次のとおり指標を設定し、施策が適切に推進されているかの目安とします。参考とする年度については、すでに実績が確認できる令和7年度と、計画期間が終了する年度の令和12年度を基準としますが、必要に応じて前後する年度を基準に採用します。

施策の方向性 1		
	現状（令和7年度）	目標（令和12年度）
備考：		

	現状（令和7年度）	目標（令和12年度）
備考：		

施策の方向性 2		
	現状（令和 7 年度）	目標（令和12年度）
備考：		

	現状（令和 7 年度）	目標（令和12年度）
備考：		

施策の方向性 3		
	現状（令和 7 年度）	目標（令和12年度）
備考：		

	現状（令和 7 年度）	目標（令和12年度）
備考：		